

## ほわつと言葉

名古屋市立大磯小学校

六年

大坪 おおつ坪 優月 ゆつき

「お友達が誰も遊んでくれないの。」  
と勇気を出してお母さんに伝えたら、涙があふれてきました。小学四年生の時のことでした。クラスの中で一人ぼっちというわけではないけれど、遊んでいる友達の輪の中に入れなかったことがあります。お母さんは、しばらくきゅっと抱きしめてくれたよ、

「しっかつたね。」  
と言ってくれました。そのぬくもりが温かくて、ほっとしたことを覚えていました。

それまでの私ほもやもやした気持ちが一杯で「わねと無視してよごこよ。」とか「仲間はずねにしないでよ。」という悪いことはかりを思っています。でも、お母さんに話を聞いてもらってからは「私が違うことをしていたから、気づかなかったかもしれない。」とか「私から遊ぼうと言ってなかったな。」と思いを直すことができました。そう考えられるようになってから気持ちが軽くなってきました。「いいじめられているのかも。」とまで思っていたので不思議です。

それからしばらくたったある日、お母さんに「誰も遊んでくれないときはどうしているの？」と聞かれて、

「一人でいるお友達に声をかけて一緒に遊ん

でる。」

と答えました。その時、お母さんは「その声をかけてもらったお友達は、うれしかったらどうね。」

と言いました。私は、はっとしました。私は自分が遊んでほしいことばかりを考えていましたが、一緒に遊ぶ子がいなくなってさみしい思いをしている友達がいるかもしれないということに気づくことができました。一人でぼつんといると楽しくなくて、悲しい気持ちになってしまふけれど、そんなときに優しい言葉をかけてもらったら、どんなにうれいだろうかと思ひます。

私は心が一杯いっぱいになったとき、お母さんに相談することができました。でも、みんなにはそういう相手がいるだろうかと思ひます。私は困った時に悩みを聞いてくれる人がいるということ、支えられていると感じることができました。ほっとできたことで、悪い自分にならなくてすみました。悪いことをしてしまふということ、それまでにいろいろな出来事があるのだと思ひます。イヤイヤして、どうしようもない心になってしまったときのこと、犯罪や非行というものにつながったのでしよう。誰かに気持ちを聞いてもらえていたら、

私みたいに気持ちが軽くなっていたら、犯罪や非行をすることもなかったと思うと、残念で仕方ありません。

では、小学生の私には何ができるのでしようか。以前にクラス全体で「ちくつと言葉」と「ほわつと言葉」を考えたことがありました。言われていやな気持ちになったり、悲しい気持ちになったりする言葉を使うのではなく、言われてうれしくなったり、元気になったりする言葉を使おうというものです。相手のことを思っかけてあげる言葉だけで、犯罪や非行に走るきっかけを減らすことができると思ひます。「ほわつと言葉」の中には「ありがとう」「や」「がんばれ」「もあります、相手のことをほめて、認めてあげる言葉もあると思ひます。」「すいね」「と言われたら相手はうれしい気持ちになるし、自信がつくと思ひます。相手がうれしくなって笑顔になるから、私もうれしいです。社会全体が「ほわつと言葉」でいっぱいになるといいなと思ひます。自分の周りを見わたしてみたとき、さみしそうにしている子がいたら声をかけてあげること。そして、元気がなくて悩んでいるような子がいたら話を聞いてあげることをしていきたいです。